



2012年 7月



アフガン ニュース

最新のニュース

東京会合における功績のハイライト

160億米ドルの支援がアフガニスタンの翌年からの発展、変遷、変革と平和の為に約束された。そのうち80パーセントがアフガニスタンの国政の最重要課題について費やされることが決定している。全体の50パーセントはアフガニスタン政府により直接分配される。



カルザイ大統領をはじめアフガニスタン首脳陣が「東京会合」のため訪日 日本および国際機関の要人と会談

7月7日、カルザイ大統領、ラソウル外務大臣、スパンタ国防アドバイザー（前外相）、ザヒルワル財務大臣、ルディン外務副大臣らから成るアフガニスタン首脳陣が、「アフガニスタンに関する東京会合」（以下「東京会合」）への参加を主な目的として訪日した。駐日アフガニスタン大使館はファティミ大使の指導の下、アフガニスタン訪日団を全面的に補佐、滞在中の便宜を図った。同8日に開催された東京会合には約80カ国の代表と各国際機関の関係者が参加し、アフガニスタンの今後について包括的な話し合いが行われた。議論の焦点は主に、2012年から

2014年の「移行期」と2015年から十年間の「改革期」をいかに成功させ、意義深いものとしていくかという点におかれ、両期間中にアフガニスタン政府の安定と強化、歳入の増強、国防主体のアフガニスタン化の達成が目指される。カルザイ大統領は、アフガニスタン支援を通じてテロリズムに立ち向かい、地域の安定と平和構築を共に目指そうとする国際社会と協力各国に対し最大限の謝意と敬意を表明した。

なお、東京会合で決定された各国によるアフガニスタンに対する援助総額は計160億米ドル（今後4年

今号のコンテンツ

最新のニュース Pg 1-3

愛子のブック
レビュー！ Pg 3-4



カルザイ大統領訪日時の動向
要人各氏と面談、大学での講演会も

7月9日午前、カルザイ大統領は日本記者クラブで報道陣を前に会見を行い、前日の「東京会合」の成功を強調するとともに、民主化直後からの日本による全面的な支援に対し、改めて深い謝意を表明した。日本記者クラブでの会見の様子はウェブ上でも閲覧可。 (http://www.youtube.com/watch?feature=player_embedded&v=G1eEjUdC2QM、もしくはYoutube上で「アフガニスタン大統領2012.7.9」を検索)

間)。そのうち30億米ドルが日本負担分であり、5年間の期限を目途に支援に供される見通し。

東京会合の詳細については下記リンクを参照のこと。
<http://president.gov.af/Content/Media/Documents/TokyoDeclaration-FinalEng-lish87201218653461553325325.pdf> (PDFファイル・英語)
<http://mfa.gov.af/en/news/11196> (同上)
<http://mof.gov.af/en/news/11180> (財務大臣によるコメント)

ンを外遊された思い出についても話されるなど、カルザイ大統領との談話を楽しまれたご様子であった。

カルザイ大統領は明仁天皇に対し、東京会合の主権国としての日本の活躍に対する感謝の意を伝えた後、良好な両国関係の重要性、かけがえのなさについて改めて強調し、会合は和やかなムードの内に終了した。

天皇陛下とカルザイ大統領の会談の様子は以下リンクを参照。
http://www.dailymotion.com/video/xdpma3_yyyy-yyyyyyyy_news

同日午後、カルザイ大統領は講演のため日本体育大学を訪問、日本体育大学理事長の松浪健四郎氏をはじめ、講演のため来場した学生、一般聴衆から熱烈的な歓迎を受けた。カルザイ大統領は名誉博士号を授与されたのち、数多く集まった聴衆に向け講演を行った。スピーチの主題はスポーツに関することであったが「アフガニスタンにとり、日本から学ぶべきことは非常に多くある。科学技術、言語、文

カルザイ大統領、明仁天皇と談話

7月10日、カルザイ大統領は皇居を訪問し、明仁天皇と面会した。天皇と大統領は「アフガニスタンに関する東京会合」でなされた意義深い議論に関し、意見交換を行った。明仁天皇は会合の成功を祝うとともに、アフガニスタン国民による東日本大震災後の復興支援およびバリーミヤン地域で行われた大震災追悼集会に対し、感謝の意を示され、皇太子時代にアフガニスタ

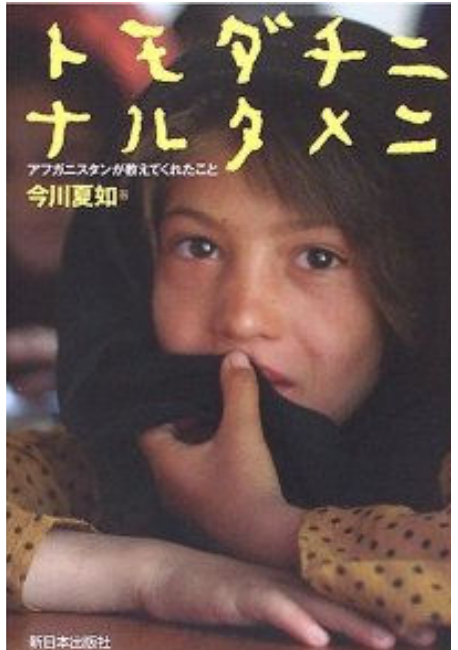




らが集い、会談が催された。「アジアの中心構想」とは、主に中央アジア諸国が相互に協力することで、広域的な危機に対応するための体制を築くとともに、地域の更なる経済成長を模索する試みであり、ルディン外相を代表とするアフガンニスタン、トルコ、国際連合により共同運営されている。今回の会談では多岐にわたる課題が議論の俎上に上ったが、特に災害時の共同支援体制の在り方について、熱のこもった意見交換がなされた。

愛子のブックレビュー！

トモダチニナルタメニ
今川夏如著



あなたは今、まわりの人との交流や、何か物事に対する興味を持って生きているだろうか？「つまらないな」とつい口にしてはいないだろうか。著者である今川氏はコンサートスタッフとして23歳でアフガニスタンに渡る。どこを会場にするのか、音楽機器はどうするのか、

(Continued on page 4)

化、習慣など、これらのものは日本に留学しているアフガニスタン人学生のみならず、私自身も学習していかなければならないと感じている」と述べるなど、両国関係全般に関する事柄への言及も見られた。講演に引き続き植樹セレモニーが行われ、カルザイ大統領も出席した。

オペラ歌手によるアフガニスタン国歌のライブ演出、松浪理事長のダリ語（アフガニスタンの公用語）によるコメント、予めアフガニスタン国旗色のあしらいが施されたスタッフ用ユニフォームなど、一貫して日本体育大学による溢れんばかりの手厚いもてなしと友好の意に彩られた講演会となった。

また同日、カルザイ大統領は野田首相との会談を実現、外交の側面においても重要な一日となった。会談の中でカルザイ大統領は野田首相に対し、有史以来友好的であり続けている両国関係を振り返り、未来に向けてこの協力関係を維持していくことの必要性を改めて強調するとともに、前日の東京会合に対する協力を含め、長年にわたって日本からなされてきた力添えに対し深い謝意を示した。カルザイ大統領はまた、日本の「取りまとめ役」としての活躍に

も言及、国際社会からの援助の取り付け、集約における尽力についても高く評価し、改めて感謝の意を述べた。そのほか、カルザイ大統領は前JICA理事長緒方貞子氏や在日アフガニスタン人学生らとも面会した。

日本滞在の最終日である翌10日、カルザイ大統領は天皇陛下との面談のほか、日本アフガニスタン友好議会連盟のメンバーらとの会談を果たした。この連盟は日本とアフガニスタンの議員の相互交流を目的として設立されたものであり、今回の会談では、両国関係の更なる強化と深化について集中的な話し合いが行われた。カルザイ大統領は連盟の活動について高く評価し、今後の活躍に期待を示した。

（日本記者クラブおよび日本体育大学の写真はいずれもChase社のリン・イェン・ティン氏のご厚意による）

当大使館にて「アジアの中心構想」会談が開催

当大使館に「アジアの中心構想」に参加している各国の代表

重要なことが決まらないまま到着した。そこで様々な人々に助けられながら会場をASCHIANAに決める。そこは子供が一家の稼ぎ手ということが当たり前であるアフガニスタンにおいて、その子供たちが働きながらも通えるNGOの団体である。彼は子供達を、そして子供達も彼を信頼していた。彼が会場を子供のいる学校に選んだのも、理由がある。今川氏は高校生のときに「補講塾」で先生をしていた。そこには両親がなくなっていたり、たばこを吸ってしまうような中学生が学校の勉強に追いつくために通う学校であった。彼はそこで教育をすることや、人と関わることに興味を持った。これがアフガニスタンで子供と関わるきっかけになった。またアフガニスタンで子供達に教育的な内容を織り交ぜながら移動サーカス団を作りたいというデイヴィットにもであった。今川氏とデイヴィットは子供達のためになんかするという点で意気投合していた。彼は「ゆめうた」という団体で音楽を世界に届けようと懸命に活動している。その中で、彼はアフガニスタンの人々は生きること

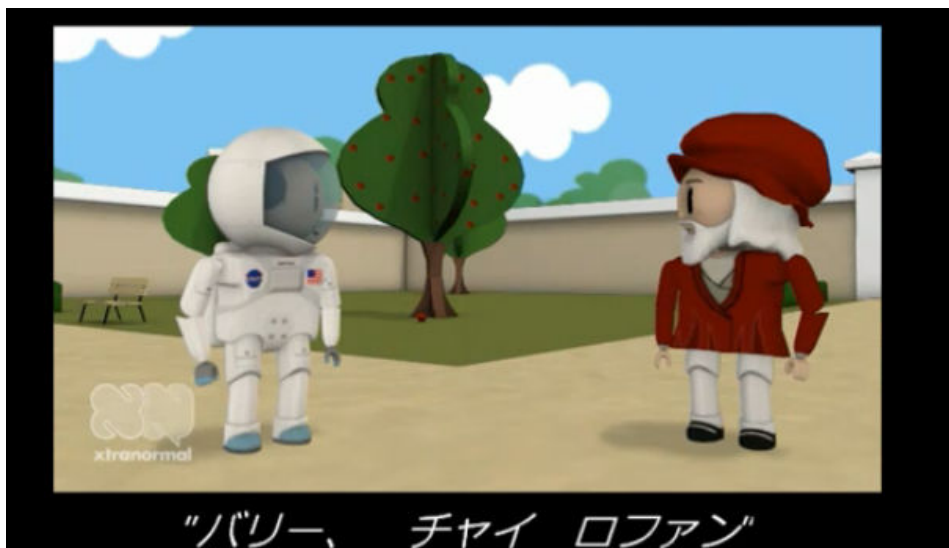
毎日楽しんでいると感じた。生きていることに日々感謝し、家族と友達と楽しい時間を過ごす。日本人はどうだろうか？日々の生活に追われて、毎日を楽しんでいるだろうか？私はこの本を読んだ後に自分に問いかけた。安定した環境で学習できること、毎日家族と時間を共に過ごせること、このことを改めて感謝したい。また少しでもアフガニスタンについて知りたいと彼は述べている。彼の友達がかれがゆめうたの活動をしているから、アフガニスタンのことを調べたり、気にしたりするだろう。それが関心へと繋がってほしいと言う。私もインターンを通して、またこのレビューを通して

より興味や関心を深めることができた。アフガニスタン大使館でインターン生として、私の家族、友人にアフガニスタンへの興味を持つきっかけとなってほしい。

新しい大使館のポッドキャストが完成いたしました：ミニキャスト#4

今回はダリー語のレッスンになっています。ぜひご覧ください。

http://www.youtube.com/watch?v=wTI03N2B8Gg&list=UUQpU6vNM5G0sQYUw_zM5Epg&index=1&feature=plcp



106-0041 東京都港区麻布台2-2-1
在日本国アフガニスタン大使館

電話・ファックス
Tel: 03-5574-7611
Fax: 03-5574-0195

ウェブサイト
www.afghanembassyjp.org

Twitter: @afgembtoky



Contact Us

当大使館のニュースレターに関するご意見、ご質問等ございましたら、大使館広報部 Jason Pratt宛に電子メールにてご連絡下さい。

pratt@afghanembassyjp.org

Facebook: www.facebook.com/afghanembassyjp



アフガニスタン大使館ポッドキャスト

